

子どもに関わる方々へ

～新型コロナウイルス感染症対策「児童虐待、家庭内暴力の早期発見・対応のために」～

公益社団法人日本小児保健協会

会 長 秋山千枝子

副会長 平岩 幹男

副会長 小枝 達也

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、社会的な不安の高まりや外出自粛などの影響により、アメリカ小児科学会では子育て家庭での児童虐待や家庭内暴力のリスクの増悪が懸念されることを報告しています¹⁾。

子ども・家族と面談、診察する際には対面、on line、電話、メール（LINEを含む）などさまざまな方法があります。対面の場合には感染の問題に十分留意して面接や診察を行ってください。ZOOM, TEAMS, LINE ビデオ通話, Skype, Facetime などを使っての on line 対応は感染のリスクもなく、話している表情や背景の子どもの様子も見えるので勧められる方法だと思います。電話での相談の場合には、相手の表情がわからないことや、不安を抱えている人は話の内容が変わりやすいことも考えて、メモをとりながら問題点を絞ってください。不安に対するメールでの相談は、不安であるという訴えのきっかけになることはよくあり、そのあと実際に話をしてみることをお勧めしています。

感染症が流行していれば不安をかかえているのが当然ですし、ちょっとしたことから子どもへの不適切な対応が起き、それが児童虐待につながってしまう可能性があります。そこで以下の項目を確認いただき、適切な対応をしてリスクを見逃してしまわないように努力していただくようお願いします。いろいろな評価項目はありますが、以下の点については必ず評価をお願いします。

子どもの様子

- 話しかけた時の反応が悪かったり、なれなれしすぎたりすることはありませんか
- もし診察ができるのであればですが、身体に不自然な怪我や痣はありませんか
- 子どもの表情をよく見てください。恐怖感やぎこちなさはありませんか

保護者の様子

- 夜、眠れているか、食事がとれているかを聞いてください
- 家族内か家族外に気軽に話ができる相手がいるかどうかを聞いてください
- 親の心身の状態の変化（ストレス、易刺激性、抑うつ）についてお聞きください。

- 新型コロナ感染症の流行が問題になってから、家族関係に変化がないかお聞きください。
- ストレスを抱えているとしたらどのように対応しているかもお聞きください
- 相談できる機関や人を知っているかどうかをお聞きください。

親子関係

- いらいらしたときに子どもに当たってしまうことはありませんか
- 子どもの行動に対して、ふだんより厳しい態度をとっていませんか
- 父親、母親どちらかが支配的な様子はありませんか

感染症だけではなく、雇用や生活などの不安を抱えていると、児童虐待のリスクが高まる可能性があります。もし以前から気になることがあったり、要保護児童対策協議会や児童相談所と過去に相談したりしたなどの場合にも、そうした家族の状況に変化がないかどうか確認できたらと思います。

気になる家族に出会ったら、まずは一人で抱え込まずに情報を共有し、別紙「ご家族の方へ」をご活用いただき、また、関係機関と連携をしていただくようお願い致します。

参考文献

- 1) Humphreys KL, et al. Pediatrics. Doi: 10.1542/peds.2020-0982